

第4回地域コミュニティ活性化委員会会議要録

日時：令和2年1月21日（水）13時00分～15時00分

会場：箕輪町役場 大会議室

参加者：地域コミュニティ活性化委員9人（欠席：春日委員）

事務局3人（企画振興課）

傍聴人数：1人

1 開 会 （毛利企画振興課長）

2 委員長あいさつ

3 協議事項

（1）地域コミュニティ活性化に向けた提言について

※事務局より提言書（案）に基づいて説明

高橋委員：提言書4P、高齢者のみ世帯等とあるが、高齢者のみ世帯のみでなく共働き世帯を入れてもらいたい。共働き世帯は、家事・育児に忙しくやりたくても役が出来ない人が多くいると思う。役員の負担軽減とあるが、役員の選考方法の基準の明示や検証を行ってもらいたい。

事務局（小笠原係長）：共働き世帯については、女性活躍推進会議でも取り上げられており、会議や区の行事等でも託児をお願い出来る仕組みを考えているので、託児については、提言書に追加していきたい。

委員長：南小河内区、役員選考苦慮していたので今年規約の改正を行った。11月の内に役員が決まった。向こう2～3年を意識した役員選考を行った。

浦野委員：南小河内区、今年、女性区議会議員が誕生したが今後どうなるか。

委員長：女性には少し無理があった。分館役員とかの方が向いていた。なので、分館役員に女性を入れて欲しかったが、難しかった。来年度は、主だった役への女性の起用は無い。女性にお願いに行ったが、断られてしまったのもあるが。女性起用は、課題。

小松委員：SNSについて。ツイッターやTikTok等若い世代向けの情報発信ツールの活用。回覧板は、回してしまうと見直せない。掲示板みたいなものを設置して見れるシステムがあるといい。都会に子供が住んでいるが、掲示板がすごい活用されていた。掲示板の管理に人・お金がかかると思うが、ちょっとしたものでもそういったものがあるといい。

平出委員：区のお知らせは、区内放送や回覧板等、区独自のものを使用している。区内放送は、雨で聞こえなかったり、機密性の高い家がと聞こえなかったりする。区内放送のシステムも古く、故障が多い。先進事例もあるようだが、町、区独自の情報が届くシステムを町全体で構築出来れば。

※浦野委員、持参資料に基づいて説明

浦野委員：このコミュニティ活性化委員会に出席してきて、自分に何が出来るかなと考え

た時にまず自分の身近な所からやっていきたいと思い、今回この事業を実施する運びとなった。社協のニシザワさん、生協にお手伝いいただける予定。坂井常会の地域コミュニティとして始めていければ。

平出委員：大きな一歩だと思う。浦野さんのようにコーディネートが出来る人が求められている。

浦野委員：継続して行っていければと思っている。どうやって継続していけるかを考えている。

平出委員：今、事業の継続をしていけないという問題がある。

副委員長：木下で育成会をやっている。子供は、地域で育てるのが基本だと思う。

浦野委員：30人～35人（小学生）が対象で20人ちょっとになるかなと思う。校外指導員さんが全戸にポストインをしてくれる予定。

副委員長：色々な人を巻き込むのは、大事。

林委員：提言についてになるが、区や常会に入っている前提での担い手不足の提言になっている。区や常会に入っていない人をどう入ってもらうかの視点も必要だと思う。区や常会への加入率の低下。区や常会への加入率の低下が改善する取り組みが項目としてあるといいと思う。どこの区でも区や常会に入っていない人は、厄介な存在になりがち。厄介者ではなくて何とか協力してもらえようという提言が必要では。

副委員長：入区金について、木下は無いがある所は多いと思う。加入金があると入区のハードルが高くなると思う。入ってくれたら、お祝い金を出すというのはどうか。区に加入すれば、色々な連絡が取りやすいし、区費も払ってもらえる。

委員長：提言内に区費について、触れている部分があるが小林さんの提言としては、もっと踏みこんで書いていいのではというもの。

平出委員：入区金は、町が出すのか。

唐澤委員：大きい区はいいが、小さい区は財政的にお祝い金のようなものは、出せない。町から区へお金をくれればいい。

平出委員：町としての検討状況は。

事務局（小笠原係長）：町としては、移住の補助金を出している。郡内からの転入は、増えている。

平出委員：入区金を無くすという話も出ているが。これまで築きあげてきたものがある。それを享受するので入区金を出せよという意見もある。

高橋委員：提言の4の最初でいきなり財源確保策が出てくるのは構成としてそうか。区の財源は、皆が意識して取り組めば、削減できる部分がある。そういった事をした上での財源確保なので、財源確保についての記載は、最後の方で良いのでは。また、ごみ分別指導員を無くしましょうのようにもう少し、具体的な提言を行ってはどうか。

委員長：財源確保策で削減努力が出来るのではという話があったが、小さい区は、資金確保が厳しいように区によって状況は様々。財源確保の項目については、掲載位置の変更で良いと思う。

高橋委員：財源確保は、町民活動を支えるという点から記載してもらえれば。

浦野委員：14Pの防災について。災害が起きた時に地域コミュニティが大切になってくる。

防災訓練ももっとやっても良いのでは。

事務局（小笠原係長）：福与・大出のマップ作成を事例として入れる。

高橋委員：大出は、区長がしっかりやってくれて作成した。ハザードマップの周知等考える場になって良かった。

委員長：福与の取り組みもすごい良かった。

浦野委員：社協とリンクしてやってもらえれば。

林委員：地域活性化の元が防災であって良いのかと思う。防災は、大事な事だが、地域の人を見逃さない取り組みが大切。地域が活性化している所の先に防災がしっかり出来ているという点があるのでは。

浦野委員：本当なら地域コミュニティとしてまとまっている先に防災があるので理想だが、まずは興味のある話題、今なら例えば防災から地域コミュニティに入ってもらおうという点もあるのでは。

委員長：白馬の奇跡のように地域コミュニティがしっかりしている所が防災面に貢献している事例があった。

浦野委員：区費について。若い世代が担っていく中で見直す必要が各区くるのでは。

高橋委員：大出区、区のトナーを使用してプリントしていたがネット業者に頼んだ。費用が何分の1になった。手間も減ったし、業者印刷なので出来もとても良い。組には、加入しないけど区に入る方が何軒かある。区を大きな自治会として、組未加入で区に入る場合、入区金を高くしたりという風に区費の見直しを始めてくださいという提言でも良いのでは。世代間ギャップがあるので、例年通りでなく1つつ話し合っていく必要があるのでは。区役、区費の見直しを断続的に行うという提言を行って欲しい。

委員長：各区で個別の違いがあると思うが、入会金、区費を見直すようにという提言の主旨を入れたい。

有賀委員：土木費について。条例が関わってくるが、区の負担金どうするか。活性化交付金、常会では適用してもらえるか。

事務局（小笠原係長）：活性化交付金は、団体分で適用できる。

平出委員：人件費がかかる。人件費を補助してもらえると区の財政は助かる。

委員長：お二人の意見に対しては、私は正反対の意見がある。国の借金が増えていく中で財政負担を自治体に求めるべきではない。今回の委員会の主旨は、自分達で出来る事は自分達でやるという事なので財政負担を求める事を入れるのは、反対。

高橋委員：区会議員がやらなければいけない仕事が草刈りなのか。カーブミラーの見回りなのか。草刈りを外注にしても良いのでは。区財産を業者に見回ってもらうとかそういうのを決めるのが区会議員なのでは。今は、作業労働者になってしまっている。

林委員：提言書のまとめ方。3→4への展開のつながりが疑問。

委員長：3と4の関係の整理。3は、各論。4は、全体を通しての提言。構成については、非常に悩んだ。

小松委員：来月、公民館の運営委員会でこういった話し合いを行っている話をしても良いか。

事務局（小笠原係長）：こういった話をしている事を言ってもらって良い。

委員長：組織は、関係ない。ワンミノワで。

浦野委員：萱野高原。小さい頃から行っていた場所だが、今は荒れに荒れている。小学生が年に1～2回登山を行っているので、もっとキレイに出来れば。山も所有者がたくさんいる、どうすれば良いか。

事務局（小笠原係長）：中間的支援員がいると良いのではと感じている。検討段階だが。

(2) 提言に対する今後の進め方について

委員長：今後の展開について。

事務局：2月の頭に確認の意味で送付。2月21日(金)に委員会の本会を予定している。3月の議会前に町へ提言書の提出。概要版(4P位)のものを作成。4月以降、広報に同封予定。また、これも確認していただく。今後の進捗管理、新たな提言のために引き続きやってもらいたいので意向を伺いたい。年で2回位の会議を想定。

林委員：今回の内容も含めた提言を行うと反発する意見が予想される。それを受けるのは、事務局だと思う。継続的な区の支援のあり方を考えてもらえれば。